

令和4年11月定例市議会

行政報告要旨

総社市

本日、11月定例会市議会を招集いたしましたところ、議員各位におかれましては、万障お繰り合わせの上ご出席くださりまして、誠にありがとうございます。また、日頃から市議会の皆様には、議会運営に格別のご配慮を賜り、重ねてお礼申し上げます。

1) 人口増加を諦めない

ちょうど1年前の昨年11月、本市の人口は69,904人となり、7万人達成目前まで迫りました。しかし、それをピークに人口は減少し、現在は一進一退。まさに今、このタイミングで人口増加策を講じなければ、歯止めのない人口減少へと突入してしまいます。

本市が従来から掲げている「福祉文化先駆都市」「子育て王国」をはじめ、あらゆる視点から市民のための施策を見直し、推進し、「住みたい総社」「住み続けたい総社」を実現させ、人口減少を上昇基調にV字回復させ、近い将来の人口7万人達成を狙える位置まで復活を目指してまいります。

(みんなにとって一番やさしいまち総社へ)

本市の根幹をなすのは、市民への徹底した寄り添いです。本市に息づく、すべての生きとし生けるものにとってやさしいまちを目指し、施策を講じてまいります。

これまで本市は、災害時のペット避難所等、人とペットが共に暮らすやさしい社会を目指してきました。今議会では、「ペットは家族の一員」という認識、人とペットとの共生に関する基本理念を条例として明文化し、お諮りします。この条例は全国でも類を見ない、迷惑条例以外の視点からペットを捉えた条例です。例えば災害時、避難所へのペット同伴可否は、首長の判断次第です。この条例案では、ペット避難所設置を義務付けると同時に、ペット逸走時の捜索協力、保護されたペットの飼い主特定の努力義務等について規定します。加えて、保護されたペットを飼い主へ引き渡す際の本人確認等については、別途定めてまいります。さらに人とペットが共生できる、そのような社会の実現を目指します。

すべての人にやさしいまちの構築には、デジタルの活用も手段の一つとして有効です。技術革新により、これまででき

なかったこと、難しかったことでも、できる場合が増えてきています。デジタルを一つの手段として、市民一人ひとりの幸福をどこまでも追及し、だれひとり取り残されない、すべての人にやさしいまちづくりをさらに推進していく、そのための土台となる条例案を今議会にお諮りしてまいります。

市民のニーズにきめ細かく対応していくことが、人にやさしいまちづくりの基本です。6月に開校した「そうじゃ夜間中『学びの教室』」では、市民の学び直しニーズを丁寧に聞き取りながら、事業を進めてまいりました。開校当初の受講者は13人。しかし、教室を開催する中で希望者が増え、現在の受講者は20人と当初より7人増加しています。学びたいという市民の願いを真摯に受け止め、引き続き、受講者一人ひとりのニーズに応じたきめ細やかな支援を行うべく、指導者を21人から24人に増員するための予算を今議会に計上しております。

(もっと子育てしやすい総社へ)

こどもが主役の「子育て王国そうじゃ」も、さらに推進し

てまいります。

1つ目、部活動の地域移行です。令和5年度から7年度を目途とし、休日を皮切りに、部活動が学校から地域に移行されます。本市では、他市に先駆け、9月26日に準備委員会を立ち上げ、岡山県内最速で10月3日から指導者の公募を開始しております。11月12日には、こども議会を開催し、市内4中学校の中学生議員19人から、直接、切なる意見をお伺いしました。地域移行後の活動ルール、学校別・地域別等の活動単位、指導者の確保、統合の場合の移動手段、活動費用増加への不安。中学生議員から出されたこれらのご意見をしっかりと受け止め、一つひとつ着実に議論を重ねることにより、生徒にとって望ましい部活動環境を構築してまいります。

2つ目は、幼稚園の給食開始です。令和5年4月から、市内16園全園で給食をスタートするべく、目下鋭意準備を進めています。週5日、原則として小中学校と同様の献立で実施します。園児の心身の健やかな発達を図り、幼稚園の魅力化を推進し、市民のニーズに応えてまいります。

3つ目は、通学路の安全確保です。昨年11月4日に起きた、親子2組を巻き込んだ痛ましい交通事故。その悲劇を二度と繰り返さない、我々はそう固く決意し、通学路の安全確認や交通安全対策事業を推進してまいりました。各学校園やコミュニティ地域づくり協議会へ、通学路の危険箇所調査を実施。グリーンベルトやカーブミラーの設置など、市が実施可能な要望箇所が232件。現在、実施済箇所119件、
予算額1億1千万円の執行率は86.4%です。未実施箇所についても、今年度中の早期事業完了を目指します。

2) コロナ禍最前線でたたかう方々を守る

新型コロナウイルス感染症第8波が懸念される中、電気料金・燃料費の価格や物価の高騰は、市民を直撃しています。

本市では、8月から、プレミアム率過去最高の70%、経済効果約12億円の「そうじゃ物価対策応援券」事業を実施し、市内事業所と市民を物価高騰から守ってまいりました。

一方、これまでコロナの最前線で戦い、市民を守ってきた医療や介護、障がい福祉、保育関係の施設や事業所が、物価

高騰の影響を価格転嫁することが難しく、青息吐息です。市民の生命と生活を守るのに不可欠なこれらの施設等が、これからも安定的なサービスを提供し続けることができるよう、総額1億3,350万円の支援を行います。

3) 危機を乗り越え総社経済を活性化

長引くコロナ禍や物価高騰により、本市では税収の大幅な落ち込みが懸念されました。確かに、市税全体では小幅な減少が続いているものの、予想に反し、法人税については令和3年度に回復傾向となっております。

令和3年経済センサスの結果を見ると、本市は事業所数、従業員数ともに、平成28年の前回調査時より増加しています。岡山県全体で事業所数が減少する中、本市の事業所数の伸び率は、県内15市中、堂々の第1位。事業所数、従業員数ともに伸びているのは、県内では本市と岡山市です。この結果は、活気あふれる都市、経済的チャンスに満ち満ちた都市として、本市が事業者に選ばれたからと言えます。さらに選ばれる総社市を目指し、やれることは全部やる、その覚悟

でより高みを目指してまいります。

今議会では、特別職等の報酬改定に関する条例案を上程しております。これは、令和3年1月の特別職報酬等審議会の答申を踏まえたものであり、社会情勢と本市の財政状況を考慮し、実施時期について慎重に検討を重ねていたものを、今般実施するものであります。

第8波への懸念はあるものの「ウィズ コロナ」、コロナとの共生が浸透しつつあります。これから、数年ぶりに大きなイベントが続きます。感染症対策を十分に行いながらイベントを実施することはもとより、市民生活の賑わいと活気を取り戻し、さらに訪れたい総社市にします。

まず、大相撲総社場所が12月10日きびじアリーナで開催されます。4年振りの開催であり、注目力士が本市に集結します。迫力ある大相撲をぜひ生でご観覧ください。

そして、来年2月26日には、4年振りのそうじゃ吉備路マラソン。今回は、フルマラソン、ハーフマラソン、10キロの3種目、定員計12,000人の参加者を募集中です。

また、明日12月1日からはSOJAイルミネーション

2022も開催。総社駅前で点灯式を行い、12月17日にはカミガツジプラザでイルミネーションフェスティバルも開催します。冬の街並みを彩るイルミネーション，ぜひご家族ご友人と冬のならではのイベントを楽しんでいただきたいと思います。

総社がさらに便利に。国道180号バイパス 総社～小寺間が来年1月29日に開通します。開通区間は，国道429号（北国府交差点）から市道門田小寺本線（総社市消防本部北）までの1.9キロメートルです。

このバイパスの開通により，現国道180号の渋滞緩和や安全性の向上が期待されます。企業誘致や市民の利便性の向上，そして人口増加，ますます元気になる総社市の更なる発展に繋げてまいります。

4) 9月議会での検討について

ここで，9月議会での検討事項につき，その結果をご報告いたします。

三上議員から，新型コロナウイルス抗原検査キットを配布

できないかのご意見がありました。これについては、保育協議会と幼稚園・認定こども園長会へ、9月30日に計800個をお渡ししました。

また、仁熊議員から、市役所職員に性格診断を行い、その結果に見合った部署へ配属する手法を取り入れてはどうかのご提案がありました。これについては、適性検査の内容や実施対象の範囲、検査結果の活用方法について、検討を進めてまいります。

不安定な社会情勢、コロナとの共生、今まさに総社市の底力が試される時です。これからの上昇気流、いかに巻き起こしていけるか。より一層市民に寄り添い、市民一人ひとりの幸せを追求する、そのための施策を推進してまいります。

議員の皆様をはじめ、市民の皆様におかれましても、これまでと変わらぬご理解と、ご協力をお願い申し上げ、私からの行政報告とさせていただきます。